



コミュニケーション能力やプレゼン能力、語学力が向上し、アメリカンカルチャーに実際に触れることができました

工学部 材料工学科 3年 小野崎 兼成さん

参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否： 可 ・ 不可

派遣先：ペンシルバニア大学

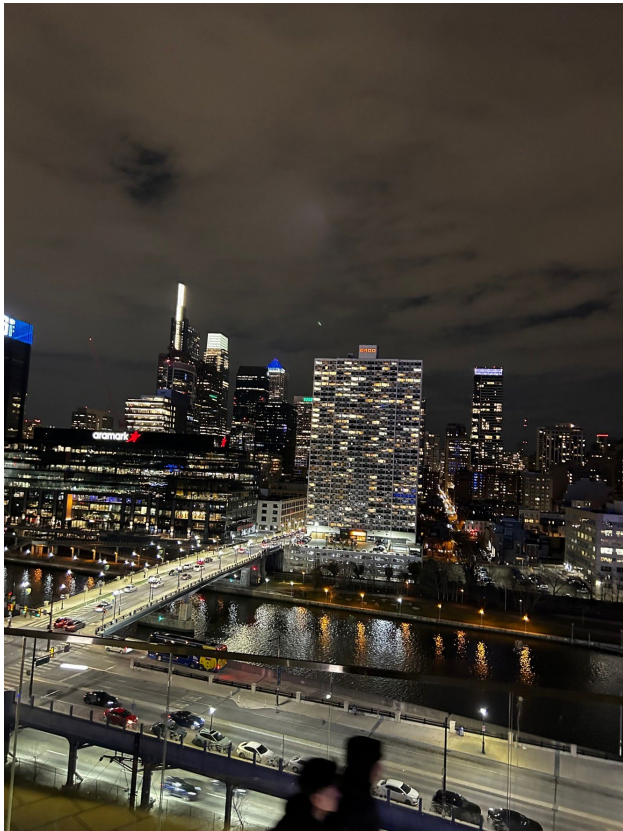
更なる語学力向上のため、以前よりアメリカ合衆国に留学をしてみたいと考えていましたが、留学経験がない中、1年間の授業履修型及び研究室配属型の交換留学に参加するのは少しハードルが高かったため、春休みの語学研修プログラムに参加しました。今回、芝浦工大からペンシルバニア大学に派遣されたのは自分だけでしたが、他大学の参加学生や教員スタッフはもちろん、ホストファミリーやルームメイトなど様々な年代、多様な文化的背景を持つ人々と交流できました。

滞在中は平日週5日、午前中にリーダーシップ、マーケティング、アメリカ文化研究の3つの授業を受講しました。基本的に少人数のディスカッションやグループワークが中心のプログラムとなっており、商品プレゼンや街頭調査など、自主性や能動性はもちろん、コミュニケーション能力や協調性が求められました。午後は基本的に自由時間となっていました。教員スタッフが親切で、ワシントンDCやフィラデルフィア中心街への観光に引率してもらったり、ペンシルバニア大学やウォートンスクールの高名な研究者や教授の特別授業が開講されたり、カレッジリーグのバスケットボールやラグビーの試合を無料で観戦できるなど、アクティビティが充実しており、有意義な時間がすごせました。土日は市内の歴史的建造物や観光地などを巡りました。地理的にニューヨークやアトランティックシティに近いこともあり、そちらに観光に行ったクラスメイトも多かったです。

ホストファミリーは白人の老夫婦で人柄もよく、夕食中も話が弾み、食事の他にもクッキーやフルーツなどのおやつをたくさん提供してくれました。また、ホストファミリーを通じてできた友人も多く、スポーツ観戦などたくさんの交流の機会がありました。

今回の語学研修を通して、たくさんの友人ができましたが、それ以上に実際に海外渡航することの重要性を知りました。SNSやニュース、海外メディアを通じた情報ではなく、渡航先で自ら得る生の情報には天と地ほどの差がありました。有名な観光地に行くだけでなく、移民のUBERドライバーや現地の日本人と会話したり、街中のグラフィティや落書きを見て回ったりするなど、アメリカでないと決してできない体験が数え切れないほどできました。目まぐるしく変化が進んでいる今日、さまざまな文化や生き方に触れることで、日本にいたころの価値観をブラッシュアップできると思います。機会があれば、半年や1年間の長期の留学プログラムに参加したいです。

2024年春渡航



Presented with Special Permission of the Trustees of the Metropolitan Museum of Art
Olympia
by J.M.W. TURNER
1865
Oil on canvas, 130.5 x 110.5 cm
The Metropolitan Museum of Art, New York City



2024年春渡航

